

# 小学校第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

## 単元名：「ともに生きる～あたたかいまちをめざして～」

指導者 熊野町立熊野第一小学校 松浦 純一

- 1 日時・場所 令和7年11月27日（木）5校時 4年3組教室
- 2 学年・学級 第4学年3組（計29名）

### 単元と教材について

本単元は、第4学年の総合的な学習の時間の中で、「福祉」の学習として52時間扱う中の後半の28時間である。1学期には、熊野町には、どのような困り感を抱える人がいるのか調べ、さらに詳しく学びたいという児童の思いから、熊野町社会福祉協議会と連携し、目の見えない方・耳が聞こえない方・足が不自由な方・高齢者・妊婦さん等の疑似体験を行った。これらの学習から、熊野町に住む人々を幸せにするために自分たちにできることをしたいという思いをもった。そこで、本単元では、幼稚園・保育園・介護福祉施設への訪問を設定し、幼児や高齢者を対象にして、自分たちに何ができるのかを考え、実践していく。自分たちに何ができるのか等、課題の解決に向けて思考する場面を設定し、相手意識や目的意識を明確にしなが、主体的・協働的に学習していくようにする。

そして、この学びを通じて、様々な年齢や立場にある人々の気持ちを想像し、自分には何ができるかを考えて行動していくことができるようにする。

### 児童の実態

【事前アンケート 10月実施】(29人中27人 回答)

質問内容	肯定的回答		否定的回答	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①総合的な学習の時間は好きですか。	11名 41%	11名 41%	4名 14%	1名 4%
②総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	3名 11%	17名 63%	7名 26%	0名 0%
③熊野町に住む人々の幸せのために、なにかしたいと思っていますか。	17名 63%	7名 26%	3名 11%	0名 0%

「①総合的な学習の時間は好きですか。」という問いに対し肯定的に答えた児童は82%であった。肯定的な回答をした児童に理由を問うたところ、「自分の興味があることを知れたり、体験したりできる。」「人の気持ちが知れたり、誰かのために何かをしてあげたりできるから。」等の回答があった。また、「③熊野町に住む人々の幸せのために、なにかしたいと思っていますか。」という問いに対して肯定的に答えた児童は89%であり、児童が思いをもち、意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。

しかし、「②総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の回答については、「ややあてはまる」が63%、「あまりあてはまらない」が26%であった。学習の中で、取り扱う事象を「自分事」として捉え、自ら「知りたい、調べたい」という意欲をもち、進んで学習に取り組むことの良さを感じていないと考えられる。

### 指導の工夫

本校で目指す資質・能力「自ら学びを進める力」の向上に向けて、以下の4つの指導の工夫として取り上げる。

本単元における「問いの工夫」【問】は、単元導入では、「熊野町に住む人の幸せのため何ができるのだろうか。」という単元を貫く問いを設定することで、児童が常に相手を意識しながら、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学びのサイクルを進めていくことができるようにしていく。

次に、「協働的な学習場面」【協】においては、単元を通して思考ツールを使いながら意見を共有し合う場を設定する。学習目標や学習内容に合わせて思考ツールを使わせ、思考力、判断力、表現力を深めさせたい。

そして、「振り返りの充実」【振】に向けて、Padletの「かんばん」を用いて、個人の振り返りを蓄積させていく。各時間で学習したことの積み重ねを、個人で見返すことができるようにする。また、Padletの「かんばん」では、他の児童の振り返りも見ることができるため、比較・関連させながら学習を深めさせたい。

また、「ICT活用」【ICT】では、思考ツールをCanvaの「ホワイトボード」で用いる。各グループ（幼稚園・保育園・介護福祉施設）ごとのホワイトボードを作成することで、授業で用いた思考ツールを蓄積していくことができる。思考ツールによって視覚化された毎時間の学びを、いつでも振り返り、活用することができる状態をつくることで、毎時間の学びがつながっていくようにしたい。

## 単元の目標と評価規準

### 【単元の目標】

福祉や教育に関わる人の話を聞いたり、体験をしたりすることを通して、幼稚園・保育園、介護福祉施設の役割や、そこで働く人や幼児、高齢者の思いや願いを理解し、熊野町に住む人々を幸せにするために自分ができることを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

### 【評価規準】

知識・技能 わかる・できる力	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	協働する力・振り返る力	
① 幼稚園・保育園、介護福祉施設の役割を知るとともに、そこで働く人や幼児、高齢者の思いや願いを理解している。 ② インタビューによる調査を、目的や場面に応じて実施している。 ③ 様々な年齢や立場にある人々への接し方や自分の行動の変容は、高齢者等の思いや願いや人々を幸せにするための行動について、探求的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 幸せな町について、これまでの総合的な学習の時間における学習をもとに課題を設定し、解決に向けて自分たちにできることを見通している。 ② 熊野町に住む人々を幸せにするために必要な情報を選択し収集している。 ③ 熊野町に住む人々を幸せにするために収集した情報を取捨選択したり、比較したり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 ④ 熊野町に住む人々を幸せにするために、自分ができることを考え、表現している。	① 課題の解決に向けた自己の活動を振り返ることを通して、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ② 友達の多様な考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③ 熊野町に住む人々の幸せのために自分のできることに取り組むことを通して、自分と身の回りの社会との関わりを見直そうとしている。

## 指導と評価の計画（全 28 時間）

本単元での本質的な問い：幸せとは何だろう。

	○学習内容 ・指導上の留意点		評価規準
一	<b>（課題の設定）</b> ○1学期に学習したことを踏まえ、課題を設定する。（2）  ・【問】1学期の学習の振り返りから、「熊野町に住む人々の幸せのために自分たちにはなにができるのだろうか。」という課題を設定し、学習の見通しをもつ。	単元を貫く問い…「熊野町に住む人々の幸せのために自分たちに何ができるか。」	[思考・判断・表現①]
二	<b>（情報の収集）</b> ○訪問先の幼稚園・保育園・介護福祉施設について調べる。（2）  ・【ICT】ICTを活用して、幼稚園・保育所・介護福祉施設について調べ、情報を収集する。  ○インタビュー内容を考える。（4） ・【協】【ICT】KWLチャートを用いて、知っていることや知りたいことを明確にする。  ○幼稚園・保育園・介護福祉施設を見学する。（2） ・働く人や幼児、高齢者の思い・願いをインタビューして、情報を収集する。		[主体的に学習に取り組む態度①]
三	<b>（整理・分析）</b> ○収集した情報をもとに、自分たちにできることを考える。（4）  ・【協】【ICT】収集した情報の分析を行い、KWLチャートに整理する。 ・【協】【ICT】グループで考えた案を、PMIチャートで評価をする。  ○実際に訪問先で行う内容を定める。 <b>（本時）</b> （1） ・【問】誰のために、何のために活動をしているのかを問うことで、相手意識・目的意識を明確にする。 ・【協】【ICT】これまで学習してきたことをもとに、ダイヤモンドランキングを用		[知識・技能①]
			[思考・判断・表現②]
			[知識・技能②]
			[主体的に学習に取り組む態度②]
			[思考・判断・表現③]

	いて、グループで考えた案にランキングを付け、訪問先で実際に行う内容を決める。 ○前時で決めた案について、他のグループと共有する。(2) ・アドバイスをし合うことで、案を改善しよりよいものにしていく。		
四	(まとめ・表現) ○次回の施設訪問に向けた準備をする。(7) ・相手を意識して、準備を行う。 ・クラス内でリハーサルを行い、アドバイスをし合うことで改善をする。 ○施設を訪問し、幼児や高齢者を幸せにするために考えたことを実践する。(3) ○これまでの学習を振り返り、身の回りの社会とのかかわり方について考え、まとめる。(1) ・相手のことを考え行動することは、幼児・高齢者に限らず、誰と接するときにも大切なことに気付かせる。その活動を通して、身の回りの社会との関わり方、これからの生き方について考えさせ、次単元の学習につなげる。		[思考・判断・表現④] [知識・技能③] [主体的に学習に取り組む態度③]


本単元を通して目指す子どものふり返りの姿：人々の幸せのために働いている人の思いや、幼児や高齢者の思いや願いを知ることができた。これからも相手の気持ちを考えながら、熊野町に住む人々の幸せのために役に立つことをしていきたい。

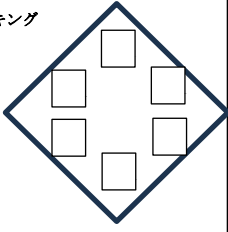
## 本時の学習 (15/28 時間)

### (1) 本時の目標

実際に訪問先で行うべき内容を、相手や目的を意識しながら考え、決めることができる。(思考力、判断力、表現力等)

### (2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
<b>1 課題の設定</b>		
○前時までの学習を振り返る。	・【ICT】前時までに整理した各案の PMI チャートを確認する。	PMI チャート 
<b>2 めあての設定</b>		
○本時のめあてを設定する。		
【問】発問：だれのため？なんのため？に計画をしているのかな？		
【めあて】小さい子やお年寄りのことを考えながら、自分たちが行う内容を決めることができる。		
	・ダイヤモンドランキングを用いて、グループの案にランキングを付け、実際に訪問先で行う内容について決めていくことを伝える。	
<b>3 自分の考えをもつ</b>		
○PMI チャートをもとに、自分のおすすめを決める。	・おすすめ案とその理由を考えさせる。 ◎考えをもつことができない児童には、考えを引き出すことができるように、一緒に PMI チャートを振り返り、質問をする。	
<b>4 協働的な学びの場</b>		

<p>○グループで考えを共有し、実際に行う内容を決める。</p>	<p>・【協】【ICT】ダイヤモンドランキングを活用し、グループ全員の考えを生かしながら、案にランキングを付けていく。</p> <p>・司会、書記を決めさせる。</p> <p>・ランキングを付けさせ、理由も入力するように指示する。</p> <p>・ランキング付けしたものとその理由を発表させる。</p>	<p>ダイヤモンドランキング</p> <p>6つの案を、</p> <p>1位に1つ</p> <p>2、3位に2つずつ</p> <p>4位に1つ</p> <p>位置づける。</p> 
----------------------------------	---	---

## 5 本時のまとめ・ふりかえり

○学習のまとめをする。

・自分たちが考えたものが、相手を笑顔にすることができるか、もう一度考えることを通して、相手を思いやる心や行動の大切さについて考えることができるようにする。

【問】発問：本当に、小さい子やお年寄りを笑顔にできるかな？

【まとめ】

・相手の気持ちを考えることで、何をすべきか決めることができた。しかし、まだ本当に思いにあったものか分からないので、もっと考えていくことが大切。

○本時の振り返りを書く。

◎【振】振り返りの視点を絞る。

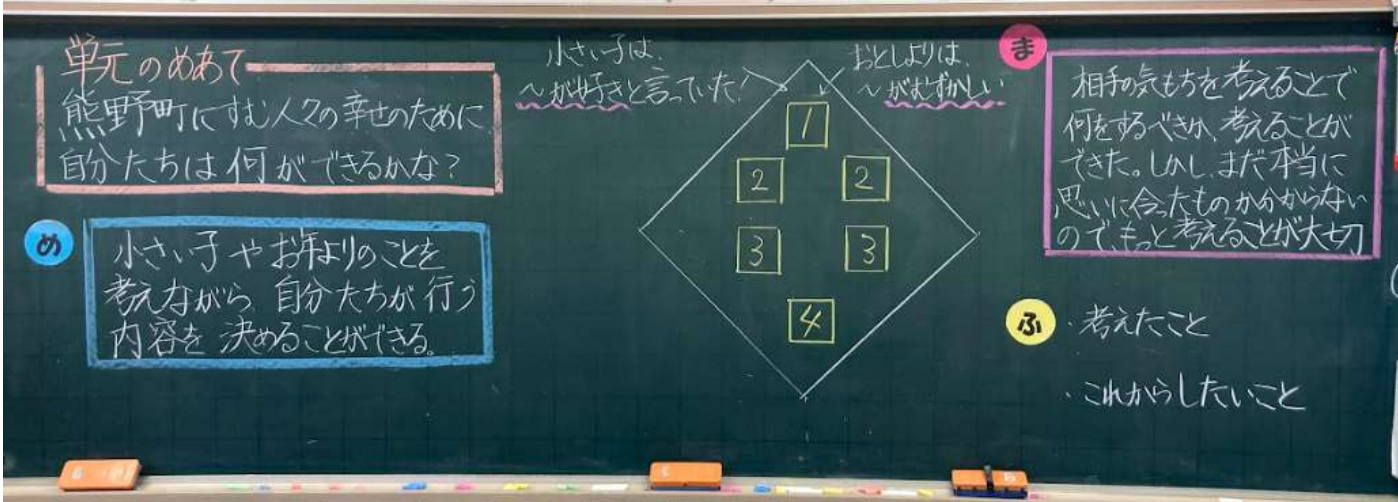
- ・この学習で考えたこと
- ・これからしていきたいこと

【本時で目指す振り返りの姿】

- ・小さい子は、〇〇が好きと言っていたので、△△の遊びがいいと思った。
- ・お年寄りの人は、〇〇することが大変なので、△△を一緒にしたいと思った。
- ・自分たちが考えた案をしっかりと準備して、本番に挑みたい。

熊野町に住む人々を幸せにするために収集した情報を取捨選択したり、比較したり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。[思考・判断・表現③]  
(Padlet 振り返り)

## 板書計画



単元のめあて  
熊野町に住む人々の幸せのために  
自分たちは何ができるかな？

め  
小さい子やお年寄りのことを  
考えながら自分たちが行う  
内容を決めることができる。

小さい子は、  
〇〇が好きと言った

お年寄りは、  
〇〇が大変

ま  
相手の気持ちを考えることで  
何をすべきか考えることが  
できた。しかし、まだ本当に  
思いにあったものか分からない  
ので、もっと考えることが大切

ふ  
考えたこと  
これからしたいこと